SENKEN
繊研新聞
2021年（令和3年）
3月29日 月曜日
繊研新聞社

繊研新聞

2021年3月29日号

「SDGs取り組み企業として取材されました」

靴下のエムアンドエムソックス

「SDGs経営」を前面に

認定取得、商品や職場環境改良

靴下のエムアンドエムソックス（大阪市、電話06・6571・5820）は、2月に外務省のSDGs（持続可能な開発目標）取り組み企業の認定を得た。これを踏みに、環境対応や働きやすさ、ジェンダー平等をはじめ、「SDGs経営を会社の大きな特徴として打ち出していく」（南昌義社長）方針だ。

奈良の靴下メーカー出身の南社長が起業し、約25年前に創業した。卸、OEM（相手先ブランドによる生産）、ECを主とする自販が3本柱。婦人・紳士のレッグウエアを中心に、年商は3億14億円。

設立草々から、商品単価に関わるトラックや飛行機などのCO2（二酸化炭素）排出量を考慮した「アパレルマイレージ」という コンセプトの下、奈良の協力ニッタンなどと密接に連携しながら、日本製のレッグウエアにこだわってきた。

近年はその動きを加速。パッケージの再生紙化、自社ECサイト商品の簡易包装、段ボールの再利用などを進め、20年12月は紙媒体カタログの廃止とスマートフォン活用による商品提案を実施し、年間で5000枚の印刷物を削減した。

商品面では機能力、天然繊維使いにこだわり、介護福祉士資格を持つ社員の発案による履きやすく締めつけない「足ラクダさんの靴下」、サトウキビ由来のスクワラン加工を施した冷感ストッキング、天然有機系のデオドラント加工など、人や環境に優しい商品を中心に据える。レッグウエアだけでなく、足回りや身の回り全体を考えた商品へとアイテムも広がってきた。

SDGs企業としては珍しい、この効果で、SDGs認定企業の商品を優先する介護関連施設からの引き合いなども出てきた。実績はまだ少ないが、海化を予定する輸出の際に、自社の信用にもつながると期待する。

一方、7人の社員のうち4人が女性。家庭の事情への考慮や人生を楽しんでもらいたいとの思いで、原則残業ゼロを実現している。今後も働きやすさを社内環境の整備に力を入れる。

主力レディスブランドの「ホーム」

南社長